

群像 創立者18人はこんな人



詩文に秀でた熱血漢



やま だ き の すけ
山田喜之助

1859(安政6)～1913(大正2)／大阪
大阪船場の商家生まれ。養南の号は、淀川の南に生まれたことによる。6歳にして漢学を学び、のち大坂英語学校、大学予備門を経て1882年東京大学法学部を卒業し、代言人となる。立憲改進黨の結党、東京専門学校(現早稲田大学)の設立に関わったが、間もなく岡山兼吉らと同校を離れ、英吉利法律学校の創設に参画。85年司法省入省、90年に大審院判事となったが、法典実施延期運動で辞職。93年衆議院議員に当選し、衆議院書記官長、司法次官を歴任。日露戦争後の講和条約に反対して起こった日比谷焼き討ち事件で熱血漢ぶりを発揮し検挙されたが、予審免訴となった。詩文集に『行餘集』、『養南詩文集』などがある。英吉利法律学校では、親族法や契約法などを担当。ゆるやかな文語調の講義は、学生に頗る評判が良かったという。



信望を集めた法律顧問の祖



おか やま けん きち
岡山兼吉

1854(安政元)～1894(明治27)／静岡・掛川
幼名は、重吉。岡山家から三好家へ養子に入った際に兼吉と改名。兼吉の読みは、一説に「かねきち」ともいう。号は、梧堂。新潟英語学校から東京開成学校へ進学、82年東京大学法学部を卒業し、代言人となる。日本橋にあった事務所には、訴訟依頼人より食客や書生の出入りが多く、法律に限らず様々な相談事が持ち込まれたという。開業から亡くなる94年までの約12年間で取り扱った訴訟件数は、2300余。綿密な証拠調べによる誠実な弁護が岡山への信望を集めた。83年倉庫会社法律顧問の就任が、日本における「法律顧問」の最初であるといわれている。英吉利法律学校では会計を担当、治罪法などを講義。

1894
明治27

1894
明治27